



編集雑記

既刊案内 (特集・主要記事)

[9月号]

◎「シリーズ 次代を担う衛生・環境工学者 No.10」東北大学大学院工学研究科 准教授 佐野大輔氏を訪ねて 水中健康関連微生物から世界の衛生を守る ～土木工学専攻 水環境学講座環境水質工学研究室～水道ネットワーク通信 有村源介 ◎「総合資源エネルギー調査会基本政策分科会」を開催し「エネルギー情勢懇談会」を新たに設置します…経済産業省 ◎「河川・ダム

の健全性の評価結果」を初公表…国土交通省 ◎「平成28年版 働く女性の実情」を公表します～「地域別にみた女性の就業状況」をまとめました～厚生労働省 ◎フロン排出抑制法に基づくフロン類の再生量等及び破壊量等の集計結果(平成28年度分)を取りまとめました…経済産業省・環境省 ◎「都市のスポンジ化」への対応方策をとりまとめました…国土交通省 ◎「空き家所有者情報の外部提供に関するガイドライン(試案)」～市町村と民間事業者の連携による空き家の利活用促進～国土交通省 ◎「災害対応におけるSNS活用ガイドブック」を作成…内閣官房◎平成28年度環境省補助事業「業務用ビル等における省CO2促進事業」におけるZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の導入事例の紹介…環境省 ◎「明日への道標」何もしないことを怖れる～本田宗一郎の流儀～(株)日本設備工業新聞社 代表取締役社長 高倉克也 ◎KC耐火ビニルパイプ、KC耐火透明継手DVの製品特性…(株)クボタケミックス 開発部 建築設備G 小林毅博 ◎「TOTO創立100周年」ものづくりの原点・TOTOミュージアムを訪れる…編集部 三浦謙一郎 ◎「東京ブラリルポ」吉祥寺界隈 ハモニカ横丁から井の頭公園へ…(株)日本設備工業新聞社顧問 坂本弘道 ◎配管ビジネスマンのための読書案内(第4回)…建築設備配管スクール◎「トピックス」トイレブース工事で特別研修…(株)岡本 ◎「LaCoon」新提案 TOTO便器とセット販売…コマネー(株) ◎新・撮った写真が5万枚!?◎…IDE研究所いでこうじ ◎建築着工統計(2017年6月)…国土交通省 ◎新製品紹介◎ニュースファックス ◎エッセイ 西村修一、新田純子

[10月号]

◎「特別インタビュー」眞柄泰基氏が目指す水道のこれから ～日本オゾン協会・水を語る会・インドネシアの水道プロジェクトを考える会会長を継続、給水工事技術振興財団理事長に就任～水道ネットワーク通信 有村源介 ◎「シリーズ 次代を担う衛生・環境工学者 No.11」東京大学 先端科学技術研究センター准教授 小熊久美子氏を訪ねて～大学院都市工学専攻 都市水システム研究室 兼担～世界の衛生確保へ誰1人取り残さない…水道ネットワーク通信 有村源介◎建設業の人材確保・育成に向けた概算要求事項の概要を公表します…国土交通省 ◎平成28年度における住生活の安定の確保及び向上の促進に関する施策の実施状況について…国土交通省 ◎建設工事における適正な工期設定等のためのガイドライン…建設業の働き方改革に関する関係省庁連絡会議 ◎住宅宿泊事業に伴う「マンション標準管理規約」の改正について…国土交通省 ◎災害時の都市サービス継続に関する国際標準の検討が始まります～災害時の電力供給停止がもたらす影響をいかに最小限に抑えるか～…経済産業省 ◎環境経済観測調査(環境短観)平成29年6月調査結果について…環境省 ◎「明日への道標」鹿鳴館から丸の内へ～ジョサイア・コンドルの東京～(株)日本設備工業新聞社 代表取締役社長 高倉克也 ◎「東京ブラリルポ」門前仲町の富岡八幡宮と深川不動堂…(一社)スマート水道推進協会会長・(株)日本設備工業新聞社顧問 坂本弘道◎「トピックス」トイレブース工事で特別研修…(株)岡本 ◎「LaCoon」新提案 TOTO便器とセット販売…コマネー(株) ◎病院の空調衛生設備配管における管種選定動向(第1回)…配管システム協会 南宗庵 ◎新・撮った写真が5万枚!?◎…IDE研究所いでこうじ ◎建築着工統計[2017年7月]…国土交通省 ◎新製品紹介 ◎ニュースファックス ◎エッセイ 西村修一、新田純子

横浜の港の見える丘公園に海を眺めているような「愛の母子像」が建っている。米軍機墜落事故で亡くなった母と幼い兄弟を追悼して遺族が寄贈した。40年前の1977年9月27日午後1時20分頃、米海軍・厚木基地を離陸した超音速ジェット戦闘機RF-4Bファントムが市街地に突っ込んで大破し、炎に巻き込まれた住民9人が死傷した。

10月11日の夕刻、沖縄の東村高江^{ひがしそんたかえ}で発生した米軍ヘリ炎上事故を知ったとき、わたしの脳裏に母が幼子を抱いたブロンズ像が甦ってきた。海兵隊・普天間基地の大型輸送ヘリCH53Eが出火し、民家から300メートルほどの民有牧草場に不時着して全焼した。無傷の乗員7人は救助ヘリで基地に戻った。日本は米軍の財産を捜査できないと定めた日米地位協定によって現場の立ち入りは規制され、1週間後に同型機の飛行が再開された。

白昼の惨事となった横浜も状況は変わらない。事故機の乗員2人は墜落前に脱出し、公務執行中の事件の裁判権は米側にあると定めた地位協定に基づき刑事責任を問われなかった。米軍は墜落現場から住民らを締め出して機体の残骸を回収し、被害者の救助活動も行わなかった。

大やけどを負った当時26歳の母・和枝さんは入院して1年4カ月後にわが子の死を知らされた。離婚し、精神病院に送られ、31歳で他界する。3歳の兄・裕一郎君は事故当日の深夜「バイバイ」と永遠の別れを告げた。翌日の未明、1歳の弟・康弘君は両親と一緒に歌っていた「ぼっぼぼ、鳩ぼっぼ」を口ずさみながら息絶えた。(高倉)

給排水・環境設備の総合誌

月刊「コア」第336号

平成29年11月1日発行 定価1,000円(本体926円)

発行編集人 高倉克也

印刷所 (株)日本設備工業新聞社出版事業部

発行所 〒150-0031東京都渋谷区桜丘町10-13

(野元第1ビル)(株)日本設備工業新聞社

TEL (03) 3496-4774(代)

FAX (03) 3464-1884